



## 平成30年度九州ブロック研究集会 「建築士の集い」熊本大会報告

6月23日、平成30年度九州ブロック研究集会「建築士の集い」熊本大会を、熊本市内のくまもと新都心プラザにて開催しました。本大会では、『一陽来復～未来へと向かって～』をテーマに掲げ、各県の地域実践活動の発表、パネルディスカッション『被災地から「今だから伝えたいこと」』、3つの分科会等の研究集会を行いました。「建築士の集い」は九州ブロック8県持ち回りで毎年開催される建築士会九州ブロックの研究集会です。

熊本県では他イベントの開催順の関係もあり、12年ぶりの開催となりました。翌日のエクスカージョンまで含めて、予定行事がすべて滞りなく無事終了いたしましたことをここに報告いたします。



九州各県より、総勢565名の建築士の方に参加頂きました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

### 「建築士の集い」熊本大会開催概要

会 場 研究集会 くまもと森都心プラザ 5階「プラザホール」他  
意見交換会 「KKRホテル熊本」2階 五峯・城彩

開催日時 平成30年 6月 23日(土)  
研究集会 12:20～18:00 意見交換会 19:00～21:00

全体会 地域実践活動発表(各県代表者10分(7'+3'))×8県  
被災地から「今だから伝えたいこと」～第1部～

分科会 第1分科会 地域実践活動テーブル討議「地域とのつながりを築く」  
第2分科会 被災地から「今だから伝えたいこと」～第2部～  
第3分科会 「くまもと城下町めぐり」



例年開催されている各県での地域での取組を発表する「地域実践活動発表」では、熊本県代表・人吉支部の久保田さんが1位を獲得されました。全国大会さいたま大会では九州ブロック代表として発表をされますので、参加される方は応援をよろしくお願いいたします。

本大会は1年半ほど前から熊本県建築士会の青年部会と女性部会を中心に実行委員会を組織し、準備を進めてまいりました。熊本地震から2年少し経った時期の開催ということで、その時点での復興状況などを知って頂ければと思い開催を決断いたしました。しかしながら、想定していた以上に熊本地震の影響が大きく、実行委員会スタッフなかなか集まりづらい・時間が取りづらい状況の中での準備となりました。そんな状況の中、熊本県建築士会や県内各支部、九州ブロック協議会の皆様、前年度開催福岡大会の実行委員会の皆様をはじめ、多くの方にご協力を頂き、大会を大盛況のうちに終わらせることが出来ました。いたらないところもあったかと思いますが、改めて感謝申し上げたいと思います。また、お足元の悪い中、予想を大幅に上回る参加をいただいたこと深く御礼申し上げます。



田中 章友

■株式会社 産紘設計



意見交換会にて

熊本地震へ支援いただいた皆様に直接御礼申し上げます。



黄木 大輔

■一級建築士事務所 黄木設計室

## 平成30年度「建築士の集い」 熊本大会第1分科会を終えて

八代支部では第1分科会 地域実践活動テーブル討議「地域とのつながりを築く」を担当し、当日は総勢100人を超える建築士が集まり、会場は大いに盛り上がりました。



会場の様子

分科会の流れとしてテーブル討議を前半35分、後半35分の2回に分けて行いました。

全8県分のテーブルを配置し、発表者、補足者、テーブルコーディネーターの3人は固定し、参加者がテーブルを移動する形式としました。

少し心配していたことは、前半は席を決めていたのですが、後半は参加者が興味のあるテーブルに移動する形にしたので、人気があるテーブルとそうでないテーブルが出てくるのではないかと考えていましたが、皆さん均等に座ってもらえ安心しました。



テーブル討議の様子

テーブル討議の手順として

- ① 自己紹介
- ② 発表者による補足説明
- ③ 質疑応答
- ④ 意見等Post-it記入
- ⑤ まとめ

※テーブルには模造紙と付箋紙、ペンを準備。

最後に全体発表を各県の発表者がホワイトボードに模造紙を貼りまとめを発表してもらいました。

参加者みんなで情報の共有ができ、地域とのつながりを築けたのではないかと思います。



全体発表の様子



全体発表の様子

第1分科会の担当が決まった際は初めての経験でもあり、正直言って大変だろうと思っていたが、毎月1回の実行委員会に出席し、疑問点などを質問していくうちに、少しずつ解決することができました。

総合司会、各テーブルのコーディネーターの手配、必要備品の準備等を約半年かけてやってきて、少しではありましたが、お手伝いすることができ、熊本大会を無事終えることができて良かったと思います。

各コーディネーターの方々、本当にお疲れ様でした。

## 建築士の集い熊本大会 第2分科会

近年九州では熊本地震（2016）や九州北部豪雨（2017）など未曾有の大災害がありました。被災地は未だ復興道半ばの状況ですが、その現状を知る機会は少なくなっています。

第2分科会では“被災地から「今だから伝えたいこと」”というテーマを掲げて、パネリスト8名によるプレゼンテーションとディスカッションを行いました。平成28年熊本地震で、様々な活動を行ってきた方々を建築士に限らず、各分野から幅広く集めることで、被災地の現状を把握するとともに被災地での活動や防災への備えなどを紹介し、今一度『建築士に何ができるのか』を考えるためにも、様々な角度から熊本地震の経験を深める機会になるような構成としました。

また、全体会の中で第1部として、熊本地震だけでなく過去の大きな災害を通じた活動から、経験を学ぶ機会として4名にプレゼンテーションをしていただく場を設けることができました。（第2分科会は第2部という位置づけになります）

第1部のプレゼンテーションでは、田邊 肇さんには、熊本地震で整備された応急仮設住宅とみんなの家の配置計画や設計について日常的なコミュニケーションが生まれるように「ゆとり」と「ふれあい」を生み出すための工夫を考え、多くの建築士と共に進めてきたこと。宮定 章さんには、阪神淡路大震災の発災から20年以上活動をされてきた経験から、震災の後に地域の住民が戻ってこられるような支援活動を熊本地震でも必要として、これからも継続していかなければならないこと。星野 辰也さんには、新潟県中越地震で被害を受けた自然豊かな土地や建物とそこで暮らす方々の写真を中心に、雪が積もる中、建物の地震被害からの復旧を行って感じた厳しさのこと。そして清本 多恵子さんには東日本大震災で防災集団移転をせざるを得なかった方々へ傾聴し、住んでいた住宅の間取り図を作成して形に残すという活動を通して、持続可能な未来を作っていくことが重要であることをそれぞれお伝えいただきました。

第1部の様子（田邊さん）



第2部では、伊藤 憲吾さんには、東日本大震災の活動をもとにした記憶の中の住まいプロジェクトを熊本地震でも行い、建築士としてのスキルが建物の設計以外でも生きるという経験をしたこと。木村 洋子さんには、地域に密着した復興まちづくりを住民の方々との会議や相談会を通して意見をまとめることができ、活動を通して交流の力を感じたこと。宮本 茂史さんには、熊本城の城下町である新町古町の町屋が被災し、解体されてい

る状況とグループ補助金や未指定登録文化財への補助などを活用して町屋の活用を模索していること。中島 孝行さんには、被災した歴史的建造物の調査・復旧の支援体制を九州ブロックのネットワークを通じて素早くとることができたことから、非常時には組織の連携とヘリテージマネージャーの役割が文化財を守る上で重要であること。遠藤 由貴さんには、仮設住宅への支援活動を学生のボランティア組織である KASEI が担い、住環境の改善に取り組んできたことと学生と住民と一緒にものづくりを通して交流し、支援してきた活動のこと。土黒 功司さんには、様々な分野の NPO などの民間団体と協働で、みなし仮設住宅被災の状況や被災者の声が届かない方々が地域から孤立しないように包括的なサポートが必要であり、地域のつながり、居場所づくりを推進していく必要があること。矢ヶ部 孝志さんには、熊本地震の発災直後の避難生活において、障がい者の方々が安全で安心して過ごせる居場所を確保することが難しく、課題として残っていること。鹿瀬島 正剛さんには、弁護士目線からの情報提供や相談、自然災害時の被災ローン減免制度、行政に対しては施策立法の提言など様々な活動を行ってきたことをそれぞれお伝えいただきました。また、ディスカッションもコーディネーターを務めていただいた田邊さんを中心に、プレゼンテーションでは話しきれなかった熱い思いを語っていただきました。



第2部のプレゼンテーションの様子

(宮定さん、星野さん、清本さん、伊藤さん、木村さん)



第2部のディスカッションの様子

(宮本さん、中島さん、遠藤さん、土黒さん、矢ヶ部さん、鹿瀬島さん)

熊本地震から2年というタイミングは、地震の復旧・復興活動が進められていて、一度立ち止まって自分の活動や周りの状況を改めて見渡すことができる時期でした。その中で、このような場を設けることができ、自分の今後の活動のヒントになるような話を聞くことができました。このような大きな災害がきっかけとなりましたが、『建築士に何ができるのか』を考え、意識していきたいと思います。



西田 真浩  
■熊本市役所

## 建築士の集い熊本大会第3分科会

九州・沖縄の各地からお越しいただいた方々に熊本の城下町の町並みや当時の建物をご覧いただき、熊本城だけでなく他にも様々な魅力があるのだと気づき、熊本をもっと好きになってもらおうと、第3分科会では城下町である古町のまち歩きを企画しました。

まち歩きの参加者は約40名。定員一杯の申し込みをいただきました。A、Bの2班に分け、それぞれのルート（右回り、左回り）で古町の主要な建物、場所を巡り、案内人からポイントごとにそこにまつわる歴史、背景などを学びました。

城下町である古町は、加藤清正の熊本城築城とともに町人町として建設されたものです。町割りは一辺120mの碁盤目状の一町一寺（一区画に一つの寺）に整備され、町名には呉服町、鍛冶屋町、大工町など職名が記されています。平成28年熊本地震により、明治期や大正期に建設された歴史的建造物のほとんどが被災し、4割程度が解体を余儀なくされましたが、解体を免れ復旧された、あるいは復旧を待つものも多数残っています。周りには鉄筋コンクリートのマンションなども建設されており、それらが混在する町となっています。

先述の通り、古町には明治期や大正期に建設された歴史的建造物が多く存在しており、そのため多くの見所があります。分科会としてまち歩きに費やせる時間は60分と決められていたため、その範囲内でどこを案内するか、コースの設定に頭を悩ませました。スタッフによる事前のまち歩きシミュレーションを行い、いくつかの候補地から立ち寄る場所、建物を選定し、当日に臨みました。

大会の当日、九州北部は梅雨真っ只中で、その日の降水確率は90%とまち歩きには最悪の状況が予想されました。案の定、午前中は大雨。しかし、大会が始まるお昼ごろには雨が止み、スタッフの祈りが通じ、まち歩きの間は何とか降らずに持ちこたえてくれました。

古町地区には大会会場から市電（路面電車）で5～6分程度。市電を貸し切り、スタッフも合わせて40数名で乗り込み、案内人の待つ呉服町電停に降り立ちました。まずは案内人から古町全体の歴史的背景などの説明を受け、その後、A・Bそれぞれの班に分かれてスタートしました。立ち寄った場所、建物は、「ナチュラル&ハーモニック・ピュアリィ」（以下「ピュアリィ」と表記。）（写真①）、「西村邸」（写真②）、「ピーエス・オランジュリ」（以下「PS」と表記。）（写真③）、「早川倉庫」（写真④）、「明八橋」の5箇所です。



写真①



写真②

「ピュアリィ」は、道路側から見ると2階建ての町屋ですが中に入るとカフェとして使われている地下1階があります。地下の壁は当時の石積みがそのまま仕上げとして使われており、静かで落ち着いた雰囲気となりました。「西村邸」は、もともと油商として使われていたため、建物の東西に煉瓦造りの防火壁が設けられているのが特徴的です。「P S」は、大正8年に第一銀行熊本支店として建てられた鉄筋コンクリート一部煉瓦造の建物で、石と煉瓦の仕上げが目を引きまます。現在は空調機器メーカーのオフィスとショールームになっています。「早川倉庫」は、明治10年に建てられた元酒蔵で、木造でありながら太い柱梁で広い空間を形成しており、現在は倉庫業を営む店舗ながら、ライブやイベント等の会場としても利用され親しまれています。



写真③

それぞれに歴史があり、現在も創意工夫のもと有効活用されているといった共通点がありました。熊本地震では土壁の崩落や漆喰壁の剥落など多くの被害を受けたそうですが、修繕し、営業を続けられています。参加者の方々は興味深げに写真を撮ったり質問したりと、有意義な時間を過ごすことができたようです。

まち歩き中は心配していた雨もなんとか持ちこたえ、安全に散策することができ、案内人の方や各建物関係者の話も落ち着いて聞くことができました。最後は予定時間ぎりぎりになってしまって急ぐ場面もあり、参加者の方々にはご迷惑をおかけした所もありましたが、参加いただいた皆様が少しでも熊本の新たな魅力を発見し、感じていただけたとしたら幸いです。この御縁を機に、どうぞまた熊本へ遊びに来てください。

どうもありがとうございました。



写真④



写真④ オーナー説明

高城 昌典



山崎 達郎

## ■熊本県北広域本部

## 「建築士の集い」エクスカーションの実施について

平成30年6月23日、くまもと森都心プラザをメイン会場に、平成30年度の「建築士の集い」が、関係者の皆様の御尽力の下、盛大に開催されました。

翌24日には、「集い」とは別途、エクスカーション（体験型の見学会）として熊本城復旧現場見学会が開催されましたが、150人を超える参加者があり、こちらも盛況のうちに終わることができました。

私はエクスカーションの企画段階からお手伝いをしてきましたが、開催に至るまでの経緯やその中で感じた反省点などについて、次回開催時の忘備録を兼ねる意味も込めて以下に記したいと思います。

## ■経過

## ○中心スタッフ集め

株式会社産紘設計の友永さんが

エクスカーションの実行委員長を務められ、友永さんからのお声掛けで、熊本環境建築事務所の笠間さん、熊本市の藤田さんと堀さん、そして私が企画段階から中心スタッフとして準備を進めていくことになりました。

## ○見学地の選定

委員長の発案で熊本城復旧工事見学会を実施するという方向性は当初より定まっていました。

日本三名城に数えられ、熊本を代表する観光名所・文化財である熊本城の復旧工事見学会は熊本開催のエクスカーションのテーマとして、これ以上のものは無かったと思われず。

## ○見学コースの設定

ただ、当然ながら単なる観光ではなく、技術者としての知見を深める場とする必要がありましたので、熊本城復旧事業の全容や具体の手法等を、つぶさに見て、聞いて、知ることができるよう、熊本城管理事務所の御協力をいただき、立入禁止区域も含めた見学コース（Bコース）の設定を行いました。

一方で相当数の応募が見込まれる中、Bコースだけでは対応できないことは明白でしたので、立ち入り禁止区域の外から熊本城の被災の状況を見学するコース（Aコース）

を別途設定することとしました。

各コースの定員については、熊本城管理事務所やAコースの案内をボランティアで行っていただくこととなった「くまもとよかとこ案内人の会」に相談のうえ、Aコースが15人の3班体制で計45人。Bコースは20人の2班体制で計40人と設定しましたが、Bコースへの申し込みが集中することが想定されましたので、Bコースについては、各県の建築士会で参加者を各5名程度に絞り込んでいただくよう要請を行いました。

## ○想定を超える申し込み

このように事前に想定し、エクスカーションの周知・受付を開始したわけですが、いざ蓋を開けてみるとAコースに対して実に160名を超える申し込みがあり、改めて熊本城に対する世間の関心の高さを思い知ることになります。

想定を大幅に超える申し込みに対して、急きよ案内人の方を増員していただき、併せて各々同僚や知人等へ声掛けを行い当日スタッフを確保し、Aコースは11班体制まで拡大して当日を迎えることとなりました。

## ○雨の想定

エクスカーション開催日は6月23日と梅雨まっただ中であり、

当日は雨ということ（下手をすれば台風）も十分に考えられましたので、雨天の際の対応方針は次のとおりとしました。

- ・前日時点で暴風雨との予報の場合は中止とし、委員長からスタッフへ連絡
- ・それ以外の場合は、当日現地集合のうえ協議、決定

## ○当日

いざ本番、当日は前日の「集い」とは違って変わって晴天。まずはほっと胸をなでおろします。

のぼりや受付用の机の設置、事前打ち合わせ等、設営は10分程度で終え、参加者を待ち受けます。受付時間20分前頃から参加者がちらほらとお見えになり、時間を10分程度前倒しで受付を開始しました。



Aコース（15人集まり次第出発方式）は事前申し込みに対する実参加率は8割強といったところで、後半の班になるにつれ班の人数が少なくなってしまい、終盤の班は一般の観光客にも声をかけて同行してもらう等、当日欠席者の穴埋

めに苦慮しました。

そんなこんなで、気を揉んだ点はあったものの、概ねスケジュールどおりに事は進み、全体的には円滑に運営できたのではないかと思います。

## ■課題と感じた点

### ○当初申し込みの想定

熊本城復旧は建築士の関心事であろうと予想はしていましたが、さすがに定員の3倍超の申し込みは想定外でした。いずれのコースも、定員の上限を厳守し、申込者の選定は各県建築士会事務局にお任せ（申し込み多数の場合抽選等）してもよかったのかもしれませんが。

### ○当日欠席者の見込み

この点は当日の天候にも左右されますので、中々見通しを立てにくいところではあります。上述のように各県建築士会の抽選制としたり、最終的な出席者報告を直前に求めたりする等により、当日ドタキャンができるだけ少なくなるような体制をとっておけば良かったのかもしれませんが。

### ○アンケートの実施

当日は、「熊本城おもてなし武将隊」に予め依頼をし、見学会終了議の参加者を文字通り「もてなし」ていただくサプライズを仕掛けたり、

「熊本城ミュージアムわくわく座」のチケットを配布したりする等、参加者に満足していただき再来熊を促すような仕掛けを行いました。やりっぱなしではなく、参加者アンケート等によりその効果を調査し、参加者の嗜好を分析するといった取り組みを行っておけば、次回への遺産になったのではないかと思います。

## ■終わりに

今回のエクスカージョンを開催するにあたって、事前の打ち合わせから当日の説明まで全面的に御支援いただいた熊本城管理事務所、及び当日ボランティアでガイドを務めていただいたくまもとよかとこ案内人の会、並びに参加者との記念撮影等「おもてなし」を尽くしていただいた熊本城おもてなし武将隊の皆様には大変お世話になりました。

また、当日快くお手伝いいただいた多くの関係者の皆様に対しまして、この場をお借りして御礼申し上げます。



## 夢にまで見た意見交換会

突然の合図とともに会場には天使が舞い降りた。馬刺しを食し、お酒を飲み交わし、積もる話を交わし合い、それぞれがそれぞれに思い思いのことをするさなか、天使の登場とともに会場の視線は全てがステージにそそがれた。「嘘みたいだ。これは夢、幻その他の類に違いない」私の知人がぼつりとそう言った。私は静かに頷いた。

きっと明日が来ればつらい毎日がやってくる。この意見交換会が終われば小雨降り続く繁華街に放り出され、来年の「集い」まで復興のため走り続ける毎日がやってくる。そんなつらい思いも含んだ意見交換会であった。ただ、この一時だけは、繰り広げられる相撲大会に。一瞬で消えた馬刺しに。寄贈される各地の銘酒の数々に。いろいろな人がいて、いろいろと繰り広げられる様々な出来事に。そんなつらさも忘れ、ただただ笑い、がむしゃらに前だけ向いてこれからも頑張ろう！と、そう思えるまさに「夢にまで見た意見交換会」だったのではないかと思います。



宮崎 大樹

■熊本県建築住宅局建築課

来年は沖縄で開催されるというこの「集い」。きっと今年以上に濃厚な研究集会となり、濃厚な意見交換会となると思います。来年は沖縄で「夢にまで見た意見交換会」が開催されると信じ、これからも日々頑張りたいと思うところです。

最後となりますが、銘酒の数々を準備していただいた方、受付や片付けなどの手伝いをしていただいた方々に、この場を借りて改めてお礼いたします。ありがとうございました。





友に気づき  
共に築く  
この集い



かんぽにゆら

熊本地震の際には、多大なるご支援をいただきありがとうございました。

熱く御礼申し上げます。

建築士の集い熊本大会実行委員会スタッフ一同



中島 範幸

■有限会社 熊積建築事務所

## 韓国 慶尚南道建築士会への訪問を終えて

平成30年4月19日～21日時の2泊3日で昌原（チャンウォン）、大邱（テグ）の視察研修に参加させて頂きました。今回、昌原では焼酎工場、大邱ではお寺など古い建築物を見学しました。

最初の見学は、韓国で有名な焼酎工場に行きました。



製造から出荷までのラインを見学し、世界のお酒が展示されて、試飲もできて良い体験ができました。



初日の夜は、韓国の建築士会の方々との交流会がありました。



前回と違うところは、スマホのおかげで、何となく理解できていた会話が、翻訳ソフトで細かい部分まで伝わるようになり必需品となりました。



2日目は韓国規模3番目の都市、大邱見学。

道東書院に行きました。



# 建築士くまもと



祖東書院



近代文化路地見学

戦時中の被害が比較的少なく、古い建物が残っています。



# 建築士くまもと



桐華寺 見学



祭りの準備中でした。



最終日 ホテルからの風景



2泊3日の限られた時間でしたが、現地の方でないと行かないような場所を今回は設定して頂きました。

貴重な体験が出来て良かったと思います。



## 「縁のタイムカプセル」記

第九代青年部会長 千葉 忠

「縁のタイムカプセル」は1986年（昭和61年）5月21日に笹原健蔵顧問の「米寿の祝い」と「縁の糸車」出版を記念して、建築士会青年部会有志と事務局の企画により目録を贈呈し、同年8月2日に（株）建吉組本社に設置したものです。

笹原健蔵顧問は、四代目会長増永茂巳氏のあと1971年（昭和46年）に会長に就任されて以降会長として15年に渡り1972年（昭和47年）建築士会20周年事業ならびに建築士会館の建設、1973年（昭和48年）7月建築士会青年部の設立、1984年（昭和59年）第27回建築士全国大会の熊本での開催（県立劇場）等に尽力され、1985年（昭和61年）に顧問に就任された後も、笹原健蔵顧問基金設立など輝かしい実績と功績を残された方です。また会長を辞された後もご自身の回顧録の出版に精力的に取り組まれる一方、当時の青年部会員に過去の出来事や壮絶な体験談などを多々伝授されました。

当時は青年部会にとって、笹原会長の指揮による「手作りの大会」をスローガンにした第27回建築士全国大会を盛会に開催出来たこと、大会終了後の活発な建築士会活動の推進や青年部会設立15周年を目前にした節目の時期でもありました。

その折に、笹原顧問の「米寿の祝い」と回顧録「縁の糸車」出版の企画があることを知り、青年部会の創設者であり最大の理解者である笹原顧問へ衷心より謝意を表したく、青年部会有志と事務局が協議して「タイムカプセル」を贈呈することになりました。タイムカプセルに納めた資料は目録、謝辞、寄付金御礼、「縁の糸車」、贈呈目録、寄付者名簿、建築士会記念誌、全国大会資料、建吉組資料、関係写真、紙幣硬貨、当時の新聞、その他で銅製箱を密封し断熱材で包装し、更にその本体をコンクリートの箱で保護した二重の箱になっており大変に強固なものでした。設置にあたっては、（株）建吉組、アサヒ大理石、田中板金等の協力支援を受けて顧問の胸像の前に埋設しました。黒御影石の名版には下記のような表記が刻まれています。

### 「縁のタイムカプセル」

私たちは、笹原健蔵顧問（前会長）の米寿並びに回顧録（「縁の糸車」）の出版を記念するとともにその功績を讃えて、ここにタイムカプセルを設置し、永久に保存いたします。

1986年 5月 吉日

熊本県建築士会青年部会、事務局有志



## 「縁のタイムカプセル」後記

第七代青年部会長 丹伊田穰



1986年当時の千葉青年部会長と有志が発案したタイムカプセルを（株）建吉組本社敷地内に埋めてから数えて31年が経過しています。

このことを記憶している人は数少なくなり、まして現在の青年部会は知らないこととっていますが、先日、中尾会長からの電話では現社長の笹原氏から会社の都合により移転して欲しいとの正式な申し出がありました。以前から懸念されてはいましたが、このような建築士会の記念物を永きに渡り私有地に保管して頂いた笹原現社長に感謝をすると共にこのタイムカプセルの取扱いについて早急に結論を出さなくてはならなくなりました。そもそもこのタイムカプセルが何を記念し、何を後生に残そうとしたものであろうかと考え、手元にある当時の記念誌「あゆみ」1952～1992を読み返してみました。

笹原前会長は、会長に就任されてすぐに会館建設の重責を担い、会の財政基盤を確立し会の発展に多大な功績を残し、また会の将来のために青年部会を創設し、公私に渡り育てて頂いた方であり、現在の青年部会もこの延長にあります。

1984年の熊本全国大会を機に顧問に退かれましたが、青年部会として、生みの親でもあり育ての親でもある笹原前顧問に感謝し、当時の青年部会活動のあり方を後生に伝えようとしたものではなかったかと思っています。そのように考えた時、この記念物は、そのようなことがあったことを現在の青年部会に知ってもらうことに意味があるのであって、当時の青年部会役員の方々にも相談し移転することは考えず、この際思い切って開封することにしました。

タイムカプセルには2010年に開封予定と刻んでありますが機会がなく、今年の1月に開封し、カプセル本体と収納資料は建築士会館に展示保存することになりました。来館の際には是非ご覧いただければと思います。



## 「4年越しのリベンジ」

水俣芦北支部 濱田裕史

平成25年11月3日、第37回親睦ソフトボール大会が、わがまち水俣のエコパーク野球場で行われるはずでした・・・しかし、無情にも、朝からの雨で大会は中止。不完全燃焼のまま月日は流れ、昨年、熊本地震を乗り越え開催された第40回松橋大会で優勝。その勢いを原動力とし、今年、念願のリベンジ第41回水俣大会開催が決定しました。水俣芦北支部会員一丸となり、この日のために準備を重ねてまいりました。

恒例の前夜祭では、100名の会員の皆様にご参加いただき、盛大に開会宣言。今では水俣名物となりました「やうちブラザーズ」による豪快なステージで、皆さんの心をわし掴みにした後は、いつもの各支部紹介と決意表明。翌日への意気込みを語っていただきました。

大会当日の朝は、天気予報通りの快晴。少し風が冷たく冷え込んだ朝でしたが、早朝から水俣芦北支部会員総出で会場設営。何しろ4年越しのリベンジ大会だけに、皆ワクワクしながらの準備でした。



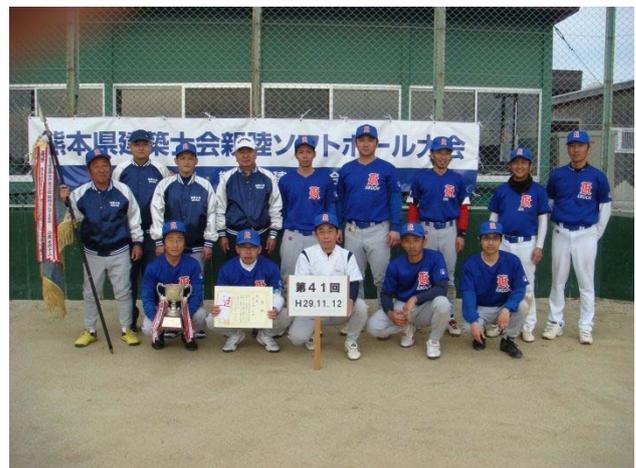
いよいよソフトボール大会の開会。我々水俣芦北支部としては、4年ぶりの地元開催と同時に、昨年からの連覇というもう一つの野望もありました。参加14チーム・総勢250名の球宴。白熱する戦いが繰り広げられ、好プレーや珍プレーの連続に、皆で大きな声

をだして応援し、楽しみました。

決勝トーナメントは、山鹿、菊池、県庁チーム、賛助会員チームが勝ち上がり激突。熱戦の結果、菊池VS賛助会員チームの決勝戦となりました。



引き締まった接戦が続く4回、菊池支部が均衡を破り得点すると、そのままの勢いを保ち逃げ切り。優勝をものにしました。手に汗握る好試合。菊池支部の皆さん、優勝おめでとうございます。そして、敗れた賛助会員チームの皆さん、残念でしたが、本当に素晴らしい試合を見せて頂きありがとうございました。水俣芦北支部は、野望でもありました連覇はなりませんが、来年の天草大会で頑張ります。



本大会を開催するにあたり、(公社)熊本県建築士会事務局の方をはじめ、各支部事務局・支部長様、関係各所の方々に大変お世話になりました。本当にありがとうございました。無事大役を果たすことができ、ホッと胸をなでおろしております。来年、天草の地で皆様と再会できることを楽しみにしております。

編集委員会より

水俣市にて開催されましたソフトボール大会の掲載が遅くなりまして申し訳ございませんでした。